

平成20年度第2回千葉市史編纂会議議事録

1 日 時：平成21年2月12日（木） 午後1時30分～3時30分

2 場 所：郷土博物館 講座室

3 出席者：（委員）

吉田会長、野村副会長、本郷委員、白井委員、今井委員
（事務局）

本庄生涯学習部参事兼課長、倉田生涯学習振興課主幹、
丸井郷土博物館館長、殿塚同館副館長、若菜同館学芸係長、
築瀬同館副主査、市史嘱託職員（大関・彦坂）

4 議 題

- (1) 平成20年度事業報告
- (2) 今後の事業予定について
- (3) その他

5 議事の概要

- (1) 平成20年度事業報告について
事業内容について承認された。
- (2) 今後の事業予定について
主に『歴史読本』の企画、及び『千葉市史 史料編 近現代』の編成案について
意見を出し合い、引き続き検討していくこととなった。
- (3) その他

6 会議経過

午後1時30分、委員6名中5名着席。安田委員と千葉市史編集委員会の三浦委員長は欠席。

司会（殿塚副館長）より、配付資料についての説明があり、続いて設置要綱第5条第2項の規定により、この会議が成立していることが告げられ開会。

河野生涯学習部長の欠席により、本庄参事兼課長の挨拶に続いて議事に入った。

議題1 平成20年度事業報告について

平成20年度の市史編纂関係の事業について、史料調査収集・整理事業、市史等の刊行事業、編纂普及事業、市史研究事業、市史協力員の活動の5つに分けて若菜係長より報告をおこなった。

<質疑応答>

吉田会長：内容は多岐に亘っているが、史料調査収集・整理事業について、何か意見を。

今井委員：旧生浜町役場の福祉関係文書は、いつ頃の物か。

事務局（築瀬）：昭和30年の合併までの分で、戦後の物になる。

吉田会長：旧町役場文書は、これだけなのか。

事務局（築瀬）：前からある文書の中で未整理分の整理を行っている。

今井委員：川口貴雄家文書は近代分という事だが、当初から寄託されている分なのか、それとも川口家から新たに借用した分なのか。

事務局（大関）：当初から寄託されている文書の中で、御用留として分類・整理した中から近代分の再目録を行っている。

今井委員：御用留の近代分という事だが、明治のどのくらいまでの物なのか。

事務局（大関）：手元に資料がないので、後で御報告する。

今井委員：旧生浜町役場文書についてもそうだが、近世の史料編を編纂した際に、近世の史料調査を細かく行っている。その折りに近代の史料についても一緒に借りられる場合は借りたが、当時は近代編編纂の方針が未定で、整理作業の対応もできなかったので、借りなかった近代分の史料も各家で多々あったと思う。川口家のような大地主には、当時の日誌や番頭が付けていた使用人関係の業務が分かる史料も残っていると思われるが、そういった関係の訪問・資料収集を行っているのか。

事務局（築瀬）：現時点では、問い合わせ等はまだ行っていない。

吉田会長：近世史料の調査からの継続という形で、各家文書の近代分の再調査が必要だが、それは行われていないという事か。

本郷委員：近代をターゲットとして所蔵者の調査を行えば、もっと本筋に関わる史料は出てくるだろう。

吉田会長：近現代部会でも、そういった調査は行っていないという事だ。

今井委員：近世と近代が一緒になって寄託された文書については、目録があるので、ある程度は分かるが、まだ近代史料の続きが残っている可能性もあるので、各家に再確認は行った方が良い。

今井委員：また一例として、南生実町町内会で預かっている資料について、町内会長からNPOに一部寄託依頼があったが、そうした町内会が保管している近現代の資料も多いと思う。

吉田会長：近現代部会でも、そういった作業を検討すべきだし、こういった形で新しい資料情報を市史編纂事業に位置付けるのかは課題だと思う。『史料編近現代』の関係調査だが、まもなく解散する県史料研究財団所蔵資料の借用・複写については、近世分はどうなっているのか。

事務局（築瀬）：現時点では、近代分を優先しているので、まだ行っていない。

吉田会長：この調査は、『史料編近現代』との関わりで必要な事業に留まらないと思うが。

事務局（築瀬）：その通りである。財団解散以降も収蔵資料については利用できる事は確認している。

吉田会長：その点については非常に問題があるようなので、再確認しておいた方が良い。他には何か。

野村副会長：市史等の刊行事業について、『千葉いまむかし』のバックナンバーのPDF化とHP上での公開を行うとの事だが、タイトルやPR活動は、どのように行っていくのか。

事務局（築瀬）：絶版分1～3号のPDF化は終わっているが、まだHP上ではアップしていない。今後、ダウンロードできるようにしておきたいと思っている。PR活動については、「市政だより」では単独での市史の事業宣伝は難しいが、刊行物や講座案内と併せて掲載してもらえるように努力したい。

野村副会長：HPは、千葉市のHPから入るのか。

事務局（築瀬）：千葉市のHPの中に生涯学習振興課のページがあり、その中に郷土博物館のHPがある。その中に『いまむかし』の販売や内容掲載があるので、絶版分のPDF版のダウンロードもできるようにしておきたい。

吉田会長：新しい収蔵庫の確保と整理についての進展はあるのか。

事務局（築瀬）：収蔵庫の若干の整理は行っているが、新たな確保については目処は立っていない。

事務局（本庄課長）：収蔵庫についての課題は認識しているので、今後検討していきたいと思っている。

吉田会長：収蔵物は千葉市民の宝であり、人類の宝でもある。

事務局（本庄課長）：収蔵庫が手狭な現状については、少しでも早く検討して改善していきたい。

吉田会長：市史編纂普及事業についてだが、研究講座の出席者が、後期は激減しているのはなぜか。

白井委員：市史研究講座は何度か参加したが、千葉市の歴史を市民が知る機会としては良い内容だと思う。ただ、参加者の年齢層が高いのと、内容が前回と重なる場合があるのが気になる。若年層にも広くPRし、かつ応募し易い環境整備が必要ではないか。

事務局（丸井館長）：講座開催日には、若年層にも参加し易い土曜日を設定しているが、もう少しPR方法を含めて検討したいと思う。

事務局（若菜係長）：PR方法については、ミニコミ紙や雑誌に記事の掲載依頼をしていきたい。市史研究講座については、今年度から電子申請での応募も可能にはなっているが、使い勝手が悪く、2名の応募しかなかった。こちらも改善を検討したいと思う。

吉田会長：研究講座出席者の後期激減の理由は。

事務局（築瀬）：市民の受講機会を増やす意味で募集方法を変更した結果、人気の無い近現代の応募が減った事と、今回は募集記事を出した時期が余り良くなかったのが減少の原因だと思われる。

本郷委員：中世辺りはまだしも、もっと古い歴史になればなるほど、千葉市域だけで講義内容を完結させるのは難しい。講座の中で、必ずしも千葉市に限らないテーマを一回ぐらい入れても良いのではないか。毎年のリピーターも多いのか。

事務局（築瀬）：定年退職された高齢者のリピーターが結構多い。

本郷委員：学校等を通じて、若年層を取り入れられないか。

白井委員：小中学校の指導要領の中でも「地域の歴史」を扱っているし、教職員も地域の歴史について勉強できる良い機会だと思うが、恐らく現場が忙しいという口実で参加していない。しかし、講座の内容をパンフレット等で学校に配布しても良いと思う。高校生レベルなら講座内容も理解できる。

本郷委員：どうやって20才代を参加させるかが難しい。

吉田会長：教職員の研修等でタイアップできないか。学生なら講座への参加を単位取得に結びつけるとか。学校に出前講義という方法もある。他の生涯学習や学校教育との連携も必要だ。

事務局（本庄課長）：小学生では内容が難しいし、学校教育では組織や予算の関係があるので難しいが、今後検討していきたいと思う。

吉田会長：古文書講座についてはどうか。

事務局（大関）：熱心で能力の高い受講者が多い。平日と週末に講座を分けているのも受講者には良いようだ。

吉田会長：ミニ企画展についてはどうか。

事務局（丸井館長）：比較的見学者は多いようだ。こうした展示は市史関係では初めてだが、今回の展示を参考にして、来年度以降も色々な形での展示を進めていきたいと思っている。

吉田会長：『千葉いまむかし』に展示の記録を掲載する予定はないのか。

事務局（築瀬）：今回は最初の展示なので予定はないが、何らかの形で残すようにしたい。簡単な内容については『千葉いまむかし』の今年度の活動の中で紹介している。

吉田会長：チラシに使われている写真や、展示キャプションの文章については活用した方がよい。ニューズレターについてはどうか。

白井委員：ニューズレターは、どこに配布しているのか。部数は十分なのか。

事務局（築瀬）：ニューズレターについては、市内の各公民館や図書館の公共施設に配布している。部数については最初なので1000部作成したが、全く足りなかったもので、次号は2000部作成して、学校等にも広く配布したいと考えている。

白井委員：広く配布すれば、ニューズレターも良い情報伝達手段になると思う。

吉田会長：内容についての感想は。

野村副会長：内容は豊富だが、文章の表現方法が全体的に難しいし、詰め込み過ぎて読みにくいので、編集の仕方に工夫が欲しい。もう少し若年層向けの表現方法や易しい言い換えが必要だと思う。できるだけ若年層にも興味を持てる内容を検討した方がよい。

事務局（丸井館長）：その辺りについても内容的に検討したい。

吉田会長：2号についての内容は。

事務局（築瀬）：メインは平川町内文書の虫干しについての紹介を予定している。後は来年度の事業を掲載する予定。

吉田会長：編纂会議や編集委員会の委員の方々に、交代で短いエッセーを書いて貰ってはどうか。

事務局（築瀬）：今回は編集委員の渡辺委員に原稿を依頼している。順次、担当して頂きたいと考えているので、委員の方々には協力をお願いしたい。

吉田会長：ニューズレターの装丁も立派過ぎる気がする。パンチで穴を開けてファイルに綴じるのにも不便だ。

事務局（築瀬）：その辺りも意見を取り入れて改善していきたい。

野村副会長：このニューズレターは横組みになっているが、歴史的史料は縦組みが多いので大丈夫か。いずれにせよ、できるだけ読み易くする工夫をして欲しい。

吉田会長：色々意見があると思うが、次に議題2に移る。

議題2 今後の事業予定について

今後の事業予定について、計画している刊行物とその他の活動についての概要を説明した上で、『千葉市史史料編 近現代編』『歴史読本』の進め方等を若菜係長より説明した。

<質疑応答>

吉田会長：最初に普及事業について何か。

今井委員：次回のミニ展示は11月頃の予定だが、市史編纂40周年記念講座に同じようなテーマがあるので、同時期に開催する事はできないのか。

事務局（築瀬）：今回は、市美術館が講座の会場として使用できない為、市民会館の空いている日程に講座を合わせている。本来は展示も合わせて実施できれば良かったのだが、期間的に難しい。今回は講座の際に、できるだけ展示の宣伝をしておきたいと考えている。

吉田会長：ミニ展示の内容については、市史編纂事業の何をベースにした企画展示なのか。

事務局（築瀬）：実質的には遺跡から出土した考古資料が展示の中心となる。現在進めている市史編纂事業とは直接的には関係ないが、市史で所有している絵図面等も含めて展示を行う予定。

吉田会長：事務局が中心となって準備を行うという事か。

事務局（築瀬）：その予定である。

吉田会長：ミニ展示については、ある程度の調査・研究のベースが必要となる。どんな展示を行うかにもよるが、2年後、3年後を見越して準備を進めておく必要がある。

事務局（築瀬）：今後の展示については、何年かの計画を考えて進めていきたいと思う。内容はこの会議においても提示していきたい。

野村副会長：ミニ展示に関連して、博物館でも子供向けの夏休み企画展のような物を行うのはどうか。普及事業の一環としても、博物館の存在を市民に知らしめる効果もあるのではないか。

事務局（若菜係長）：夏休みの子供向けの展示はやっていなかったが、今後検討したい。ただ、展示室に空調が無いので、当館まで来ての長時間の見学は暑くて大変だと思われる。ミニ展示ぐらいなら許容限だと考えている。

野村副会長：一階の展示解説は良くできているが、中学生以上でないと理解は難しい。夏休み期間の小学生向けの展示解説があっても良い。

事務局（丸井館長）：3階部分の展示に関しては、小中学校の教職員に依頼して、低学年向けの展示キャプションのチラシを作成している。

吉田会長：飯田市の美術博物館では、毎年「美博まつり」という子供向けの祭りをやっている。学芸員が2日間指導して、参加した数百人の親子が、半分遊びで、土器作りをしたり、工作をしたり、ついでに夏休みの宿題をしたりしている。

白井委員：当館でも、小学生向けの鎧作り講座がある。プラネタリウムが無くなった分、そうした小学生向けの企画を増やした方が良い。

事務局（丸井館長）：鎧作りについては、当館でも工夫していて評判が良いので、来

年も続ける予定。

野村副会長：今後の刊行物についてだが、『歴史読本』は平成21年度の請求で予算がつかなければ先送りになる。分かり易い『歴史読本』は市民にも相当期待されていると思われるので、一つの方法として指定管理者制度等の民間活力を利用して『歴史読本』を作成する手法も検討してみてはどうか。

事務局（丸井館長）：『歴史読本』については、まだ十分な議論が煮詰まっていない。まず事務局で編集方針と刊行計画書を作成し、原案を編纂会議に提案、見通しが立った時点で、予算要求等を考えて検討していく事になると思う。

野村副会長：3年以上検討している内容の事ではあるが。

吉田会長：来年度に予算を請求していて、もし予算が通ったら、来年度中に刊行する事なるが、常識的に考えて可能なのか。夏までに企画準備ができていなければ来年度中の刊行は不可能だろう。『歴史読本』については編集委員会の管轄なのか不明だが、編集委員会での議論の蓄積があって準備が進行しているのか、その辺りはどうなっているのか。

事務局（丸井館長）：予算の先行きが不明なので提示はできないが、事務局としても一案として通史的な『歴史読本』について検討を行っている。

野村副会長：いずれにしても予算が付いてからという事か。

吉田会長：どういう予算を請求しているのか。刊行実現に向けての予算請求なのか。

事務局（築瀬）：概略は、印刷製本費が84万円、原稿執筆料が20万円として予算請求している。

野村副会長：ブックレットという事か。

事務局（築瀬）：一冊分になる。2000部印刷する予定。

野村副会長：2000部というのは結構小規模ではないか。

吉田会長：ページ数は。

事務局（築瀬）：100ページのカラー印刷で、A5版になる。

吉田会長：この予算金額で可能なのか。

野村副会長：余り良い物ができるとは思えないが。

吉田会長：編集方針案と刊行計画案の作成については、かなり早急に進めなければ間に合わない。予算の内示はいつか。

事務局（丸井館長）：最終的には3月の議会で決定する。

吉田会長：少なくとも年度内には案を各委員に提示して、次回の編纂会議までに製作プロセスを進行させるようにしなければ絶対に難しい。予算が通ってからでは、事務局だけで進めるしかなくなる。

野村副会長：この『歴史読本』はシリーズ化する予定なのか。

事務局（築瀬）：その辺りも具体的には決まっていない。検討課題については、次回の編纂会議で計画案を作成して提示したいと考えている。

吉田会長：以前にも提案したが、刊行物の作成とは別に、恒常的な基礎共同研究の活動を、各委員や市民を交えた少人数グループで行うべきではないか。とりあえず3グループぐらいを編成し、一つ目は市民からの聞き取りによる千葉市の近現代史の記録調査、二つ目は千葉と江戸との関係についての各方面からの調査、三つ目は千葉市域の各ブロックごとの歴史を集中調査して、成果をブックレットや当館でのミニ展示で地域に還元する、といった活動を行ってみてはどうか。こうし

た活動は、中心となる人物がいないと難しいし、どのような形で行っていくかは検討していくとしても、これまでの近世史編の調査研究活動を継承していく意味でも、今後の事業の新たな柱にしても良いのではないか。市史研究会をグループ化して、その調査研究成果を年一回の発表や『歴史読本』に活用するのも良いと思う。

今井委員：地域の地元研究グループと市史との連携や情報交換も重要になると思う。

吉田会長：市史研究会の開催予定についてだが、毎回報告が1時間では短か過ぎる。

最低90分、できれば2時間ぐらいでないとなかなか十分な報告ができないので改善を希望したい。年4回開催との事だが、早めに予定を決めておく必要がある。編纂会議についても年2回になっているが、3回にはならないのか。

事務局（若菜係長）：予算的な問題もあるので、3回は難しい。

吉田会長：5月と2～3月に2回行い、その間の9～10月の秋頃に市史研究会も兼ねて、編集委員会の委員を交えて懇談会を行う事はできないか。そのぐらいやらないと、良い市史の編纂には繋がらない。

事務局（丸井館長）：予算的な問題はあるが、年に何回かの懇談会については検討したい。

吉田会長：以上で議題2を終了するが、次に議題3に移る。

議題3 その他

<質疑応答>

吉田会長：議題3について、何か。事務局の方からは何か。

事務局（若菜係長）：特には無い。

吉田会長：以上で議事を終了する。

事務局（殿塚副館長）：以上で平成20年度第2回千葉市史編纂会議を終了する。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館市史編纂担当

TEL 043-222-8231